

| | | | | | |
|------------------|-------------|-----|--------------------|------------|--|
| 04月度 例会 個人 山行報告書 | | 報告者 | 町田 修 | 参加 メンバー | CL:町田 SL:金子清 西川徹朗 石川ヒロ子 天野 広 津田廣一 佐原富士夫 |
| | | 報告日 | 4/18 | | |
| 山城 | 奥美濃 | 山行日 | 2023年04月16日(日) | | |
| 山名 | 能郷白山 1,617m | | | | |
| 山行目的 | 残雪の春山を楽しむ | | コースタイム (天候: 天気図記号) | | |

配布先
総会参加数
山行: 1
リーダー
原紙:
会事務局

ルート図 (地図を見て正確に)

登山口に設置されてある看板より

1/2.5 万地形図:

4/16 (日)
曇り/小雨/みぞれ/晴れ

04:00 年金会館 P 発
07:05 林道 P 発
08:05-15 登山口
09:10-20 林道合流
10:30-40 前山
11:30-35 稜線のコル
11:55-12:25 山頂
13:40-50 前山
15:30-40 登山口
16:30 林道 P 着

行動時間/9 時間 25 分

◆根尾村公民館の「杉山 新次郎」さんからの情報

・3/10 能郷白山山頂の奥社開きで入山した。その時、前山に至る尾根上のイワチワは満開だった。かつて、山頂付近にはニッコウキスゲの群生も有ったがシカに食べられてしまった。

・能郷谷登山口の橋は杉山さんたちが 4/16(日)架けてくれたそうです。

杉山さんにお礼と確認。

町田

〈山行報告〉 林道終点の駐車場には魚釣りの車が 1 台止まっていた。そして山行中、この人以外は誰一人合わなかった。日曜日なのだが曇り一時雨の天気予報の日に、のこのこ出かけて来る人はそうもないだろう。だが、時々日が差し、谷沿いの薄緑色の山肌は新緑の芽吹きでとても清々しい。登山口まで約 1 時間、UP も兼ねてゆっくり歩く。今回は現役から能郷白山リベンジの西川さんと、奥美濃通の石川さん、何十年ぶりかで残雪登山復帰の佐原さんと、いつものメンバーだ。さて、登山口の第一関門、渡渉は雪解け水と夜来の雨で増水している。早速水没の洗礼を受けながら尾根に取付く。いつもの年に比べ随分残雪が少ない。ほぼ夏道通しに前山まで行けた。天気は予報にたがわず曇り、時々雨、一時みぞれ、時折日が差す、不安定な空模様でカッパを着たり脱いだりしながら高度を稼ぐ。場合によっては前山で山頂 TRY の判断を考えていたが、前山の雪稜に出ると、何の迷いもなく頂上を目指した。面白い話を思い出していた(棋士の藤井聡太が七冠を目指す現在の心境を「森林限界の手前で、周りがかっきり見えない混沌とした心持ち」と、山用語を比喻にして語っていた。) 天才棋士の心境ではないが、見通しの利く稜線に出るとメンバーの体調も有るが、気持ちは山頂に向かう。やはり残雪と夏道の表れた道を快適に約 1.5 時間歩き、山頂直下の急な雪面に出る。トップのキックステップで急登を抜けると、なんと山頂は雪が解け、土の上に標識が立っている。今まで何回も春の能郷白山を訪れているが、こんな光景は初めてだ! 登頂の喜びも早々に、みぞれ交じりの天気山頂を後に

する。急な雪面の降り現役の 2 人は丁寧にアイゼンを付け、OB は滑っても熊笹の中だとはかりに、登りのステップ跡を辿って下った。前山から山頂を振り返ると、雪と熊笹の斑模様が妙に寂しい。やはり能郷白山は広い山頂にたっぷりの雪が良く似合う。そして登山口まで戻ると、なんと! 今年も橋が架かっている。渡渉のストレスも消え感謝です。クールダウンの林道歩きをワイガヤ言いながら歩き、山行を終えた。

《フリースペース》山頂の仲間たち



〈リーダー所見〉◆能郷谷からの山頂往復は≒9.5 時間と OB の山行にはちと厳しい。GW 明けには R157 温見峠ルートが開通する。温見峠から山頂往復は≒5 時間弱。又、2023 年には冠山峠トンネルも開通する。残雪期の冠山や金草岳も R415 冬季閉鎖解除で、選択肢は広がる。これからも 1 回/年ぐらいは奥美濃の残雪登山を楽しんで行きたい。

確認
(リーダー)
町
23/04/18
田
作成
(報告者)
町
23/04/18
田